

# 地球電磁気・地球惑星圏学会

SOCIETY OF GEOMAGNETISM AND EARTH,  
PLANETARY AND SPACE SCIENCES (SGEPSS)

<https://www.sgepss.org/sgepss/>

第 241 号 会 報 2021 年 5 月 14 日

## 目 次

会長挨拶 山本衛	・・・ 1	Conductivity Anomaly (CA) 研究会	・・・ 12
副会長を務めるにあたって 塩川和夫	・・・ 2	内部磁気圏分科会	・・・ 13
第 31 期役員選挙の結果	・・・ 2	「若手アウトリーチ活動 STEPLe」令和 2 年度	
第 30 期臨時運営委員会報告	・・・ 3	活動報告 北原理弘、堺正太朗	・・・ 14
第 30 期第 9 回運営委員会報告	・・・ 5	第 29 回衛星設計コンテスト参加登録・	
第 31 期第 1 回運営委員会報告	・・・ 8	作品募集のお知らせ	・・・ 15
第 149 回総会開催のご案内	・・・ 9	助成公募	
学会費納入についてのお知らせ	・・・ 9	2021 年度前期助成公募のご案内	
2021 年秋学会および特別セッション		公益財団法人 宇宙科学振興会	・・・ 15
募集のお知らせ	・・・ 10	計報	・・・ 16
分科会報告		学会賞・国際交流事業関係	
太陽地球惑星系科学シミュレーション		年間スケジュール	・・・ 17
分科会	・・・ 11	SGEPSS カレンダー	・・・ 17
波動分科会	・・・ 11	賛助会員リスト	・・・ 18

## 会長挨拶

### 第 31 期会長 山本衛

第 31 期 (2021 年 4 月～2023 年 3 月) の会長に就任しました山本衛です。簡単に自己紹介をさせていただきます。京都大学生存圏研究所の教授・副所長を務めております。大気圏・電離圏の研究者であって、大型レーダーによる観測研究を特徴としています。特に MU レーダーに関しては、その初期から現在までずっと運営と観測に関わってきました。その他、インドネシアをはじめとする海外での観測や、観測ロケットを使った電離圏研究にも参加させていただきました。電波によるリモートセンシング技術の開発にも携わっております。本学会には、運営委員 (2003～2012 年)、評

議員 (2013～2018 年)、副会長 (2019～2021 年) として参加して参りました。

さて、昨年からの新型感染症によって、学会も大きな影響を受けてきました。昨年春からのほとんどの研究集会在オンライン化を余儀なくされております。本学会においても昨年 11 月の学会がオンライン開催されました。大村前会長のもとで、それがスムーズに行われたことは素晴らしいことでした。しかしながら、決してそのままだが良いとは考えておりません。特に若い研究者や大学院生諸君にとっては、将来の研究仲間 (あるいはライバルかもしれません) との出会いや、論文の著者としてしか知らなかった先生方との交流を、直に実現することが重要でしょう。今秋の学会の開催形態については、感染症の状況を見極めながら決

めていきます。次の総会で、ご提案をさせていただきます。

前期から引き続き行っていく事項がございます。学会の web ページの更新や、研究分野を表現するグラフィックの整備です。準備が進みつつあり、近日中には公開に至ります。これは学会の活動内容の PR を進めるべきという大村前会長の発案によるものでした。重要なご指摘であり、学会活動の普及に向けた努力は引き続き進めます。本学会については、会員総数は大きく変化していないものの、正会員数の減少が進みつつあります。学問分野の勢いは、そこに集う人の数によって左右されるところが少なくありません。短期間では難しいかもしれませんが、会員数の増加のための方策を考えて参ります。

本学会の将来計画については、2 期前から将来構想検討ワーキンググループが継続設置されており、議論が続けられています。本学会の今期は、日本学術会議による次回のマスタープラン 2023 の提案時期に当たっております。それに向けて、まず地球惑星科学委員会による大型研究計画ヒアリングが 6 月下旬に開催されます。大型研究計画の実現に向けた支援と、学会ならではの長期の学術動向の議論を共に行っていきます。

Earth Planets and Space (EPS) 誌については、科研費による出版支援が 2017 年度末に終了したあとの運営が危ぶまれましたが、今のところ順調に推移しています。関係者の多大な努力のたまものであり感謝します。また会員各位からの良質の論文発表に支えられています。EPS 誌の評価は我々の学術の品質や健全性への評価に直結するものです。引き続きご支援をお願いします。

本学会は法人格を持たない「人格のない社団」として組織されています。収益事業を全く行わない学会であること、組織の規模から、この運営形態には合理性があります。しかし、そのために運営責任が学会長ひとりに求められる状況がございます。さらに本学会は EPS 運営についても事務局の設置や運営に重い責任を負っています。万が一の事態に備える方策について、考えたいと思います。

以上、本学会の状況を踏まえながら、今期に考えるべき課題を挙げてみました。長期にわたる課題もございますが、徐々に取り組んで行きたいと思います。今後ともご支援をよろしく願いいたします。

## 副会長を務めるにあたって

塩川和夫

このたび第 31 期の副会長に選出されました塩川です。これまでお世話になってきた学会において大変大きな任務を仰せつかりました。自分で務まるかどうか若干不安であります。微力ながらご期待に応えるように努めていきたいと思っております。私のこれまでの学会との関わりですが、東北大学の修士課程の大学院生として初めて学会に参加させて頂いたのは 1988 年でした。それ以降、1996-1997 年にドイツに滞在していた期間を除けば、毎回学会に参加させて頂きました。2009-2015 年に 3 期連続で運営委員を務め、運営に関わっておりました。その後 2017 年からは評議員でありましたが、しばらく学会運営からは離れておりましたので、これからの 2 年間でまた学会運営の現状について理解していきたいと思っております。

本学会の分野は、電磁気現象を主な対象として広く太陽圏・地球周辺の宇宙空間から地球内部までカバーしております。真理の探究としての興味に基づく研究と、その実社会への応用という両側面から発展してきていますが、東日本大震災や火山噴火、オゾンホールや地球温暖化、衛星測位に代表される宇宙利用の発展などに伴い、本学会の分野でも「社会への応用」という側面がますます重要視されていると思っております。そのような中で、本学会が皆様の研究交流を促進させ、さまざまな新しい方向に発展していくための一助になればよいと思っております。また本学会は地球規模の現象を対象としているために、本質的に国際共同研究が必須の分野でもあります。学会の国際的な発展にも微力ながら貢献できれば、と考えております。

コロナ禍で本来の学会の役割である人と人との交流がなかなか進まないのが現状ですが、この状況はいつまでも続かないと思っておりますし、少し腰を落ち着けて考える良い機会でもあります。これからどうぞよろしく申し上げます。

## 第 31 期役員選挙の結果

第 31 期役員選挙の投票が 1 月 22 日に締め切られ、1 月 25 日に開票作業が行われました。その後、

山本衛新会長を中心とした会長枠の検討の結果、  
以下のように確定しましたのでお知らせします。

=== 選挙結果 ===

副会長 開票結果（投票総数 165）

氏名	得票数
塩川和夫	39 当選
中村卓司	32 次点
小原隆博	26
清水久芳	23

（以下は、6票以下）

評議員 開票結果（投票総数 165）

順位	氏名	得票数
1	山崎俊嗣	120 当選
2	石井守	98 当選
3	渡部重十	95 当選
4	歌田久司	92 当選
	塩川和夫	85 新副会長
5	中村卓司	84 当選
6	家森俊彦	83 当選
	津田敏隆	77 辞退
7	小原隆博	70 当選
	中村正人	50 辞退
8	清水久芳	38 当選
9	橋本武志	31 当選
	渋谷秀敏	26

（以下は、16票以下）

齋藤義文	会長枠
中川朋子	会長枠

新副会長と辞退された方を除く上位9名を選出後、内規第2条第2項の定めにしたがい、山本衛新会長は研究分野のバランスを考慮し、新旧評議員と協議の上、さらに2名を選出しました。大村善治第30期会長を加えた12名が第31期評議員になります。

なお、評議員の選出について、内規第2条第2項で、「(前略) 得票数の順位に従って上位9名を当選者とする。なお得票同数者がある場合には年長者を当選者とする。評議員については、選挙で選ばれても辞退することができる。(中略) 新会長は新旧評議員と協議の上、さらに2名まで選出することができる」と定められています。

運営委員 開票結果（投票総数 166）

順位	氏名	得票数
1	三好由純	146 当選
2	海老原祐輔	144 当選
3	臼井洋一	140 当選
4	阿部修司	137 当選
5	山本裕二	130 当選
6	高橋太	125 当選
7	佐藤光輝	120 当選
8	津川卓也	118 当選
9	今村 剛	115 当選
10	浅村和史	114 当選
11	坂中伸也	110 当選
12	大矢浩代	109 当選
13	山谷祐介	102 当選
	横山竜宏	100 会長枠
	行松彰	96 会長枠
	笠羽康正	63 会長枠

（以下20票以下）

運営委員の「会長枠」については内規に以下の通り定められています。

内規第2条3：運営委員については下記の様式に従い13名連記無記名投票を行い、合計得票数の順位に従って上位13名を選出する。得票数が同数の場合は年長者を上位とする。新会長は運営委員会の継続性ならびに運営委員所属機関等のバランスを考慮し、新副会長、新旧運営委員と協議の上、定数16名の残り3名を選出する。

（第30期運営委員・総務・海老原祐輔）

## 第30期臨時運営委員会議事報告

日時：2021年2月12日金曜日 13:00-15:00

会場：Zoom

出席（総数18名、定足数11名）：大村善治（会長）、山本衛（副会長）、浅村和史、阿部修司、天野孝伸、臼井洋一、海老原祐輔、大矢浩代、加藤雄人、坂中伸也、佐藤光輝、津川卓也、橋本久美子、松島政貴、三好由純、山本裕二、行松彰、吉村令慧

欠席：山本裕二

議事：

#### 01. 国際学術交流事業について

- 第4回の外国人招聘、若手派遣、研究集会の全てについて応募が無かった。
- 昨年度国際研究会補助に採択された第14回宇宙空間シミュレーション国際学校(申請者:神戸大学 臼井英之会員)については、2021年9月に延期の連絡を受けている。
- 今年度はコロナの影響で全く応募が無かった。しばらくはこのような状況が続くことを考えると、今後の募集のあり方について見直しの検討が必要かもしれない。

#### 02. 学会費長期未納者の対応について

運営委員で3年以上学会費未納の会員に対して連絡する担当を決めた。2月21日(月)頃までに会計担当まで状況を報告する。

#### 03. 山田科学振興財団「2021年度研究援助」の学会推薦について

会員から応募が1件あり、既に推薦している。その後、財団から2件推薦枠があるため、ぜひ推薦して欲しいとの連絡があった。これを受けて追加募集したところ2件の応募があり、審議の結果、1件を推薦することとした。

#### 04. 将来構想検討WGについて

- 将来構想検討WG(兼分科会連絡会合)を学会期間中に開催し、学会後にデータ問題について各分科会にアンケートを行った。
- 多様な意見や問題点が挙げられており、31期への継続した課題として引き続き議論を進める。
- EPSはAGU系ジャーナルとは異なる方針で運用してはどうかという意見もあり、能勢会員(EPS副編集長)とも情報共有している。
- 地球科学に共通の話題であるため、JpGUのセクションボードにも意見を展開し、対応を議論してもらおう。
- 分科会連絡会合経由で会員に周知、意見徴収を行い、JpGUおよびEPSに意見を展開する。

#### 05. 衛星設計コンテストについて

以下の事項について報告があった。

- 次回(第29回)衛星設計コンテスト第1回実行委員会が1月26日に開催され、28回の総括と29回の方向性について議論がなされた。

- 28回は最終審査会がオンライン開催となったが大きなトラブルなく盛況のうちに終えた。
- 29回も最終審査会をオンラインで11月13日に開催することが決まった。
- 小山孝一郎実行委員会会長から井上一新会長(元宇宙研所長)に引き継がれる。以下の事項につきそれぞれ審議し、承認された。
- 審査委員の町田忍会員の後任には今井一雅会員(高知高専・名誉教授)、企画委員は田所裕康会員の継続、がそれぞれ提案され、承認された。
- 今後の委員の任期および後任選出の運用について以下のような方針が提案され承認された。
  1. 審査委員・企画委員の任期は原則2年間の任期制とし、延長の場合は1年毎の更新も可とする。
  2. 委員交代については、コンテスト実行委員(会長・担当運営委員)、企画委員、審査委員が、次期企画委員もしくは審査委員を推薦し、運営委員会の議を経て決定する。
- 次回の衛星設計コンテストについて継続して共催の提案があり承認された。詳細については正式な共催依頼が届き次第運営委員会に展開し、確認することとする。

#### 06. その他

- 役員選挙関連  
選挙結果について報告された。
- 次期EPS運営委員会について  
次期のEPS運営委員会議長はSGEPSSから出すことになる可能性が高い。現在のEPS運営委員(加藤会員、吉村会員、臼井会員)のうち加藤会員、吉村会員は来期のSGEPSS運営委員からは外れることになる。必ずしもSGEPSS運営委員から人選する必要は無いため、来期も加藤会員に協力をお願いし、SGEPSS運営委員から臼井会員(継続)ともう1名を選出する方向で検討する。
- 一般向けのグラフィックスの制作について  
太陽圏については校了済み。残り9点についてもカクタス・コミュニケーションズ社に発注した。年度内完成を目指している。
- 過去の学会予稿集の保存について  
➤当初は、原本はスキャン後に破棄する予定であったが、歴史的価値のあるものであるとの

意見もあるため、非破壊スキャン後に保管することになった。

- ▶ スキャンした PDF では文字情報は判別出来る程度のクオリティである。
- ▶ 今後も原本を継続的に保管するのか、するとしても劣化を防ぐためには注意が必要である。
- ▶ PAC で外部倉庫に保管、または会員数の多い大学・研究所等で保管する、という可能性が考えられる。
- ▶ 学会内規では、学会基本資料は運営委員会で引き継がれるものと明記されている。
- ▶ 国会図書館で保管してくれる可能性もあるかもしれない。(要調査)
- ▶ 当面は山本新会長が保管し、次期運営委員会で継続審議とする。

#### ● ウェブ更新について

秋学会のオンライン対応などがあったため、ウェブ更新計画が遅れている。大村会長から、タスクフォースの中村紗都子会員・銭谷誠司会員を中心に新ウェブサイトの原型作成を進めてもらうことが提案され、承認された。

#### ● 新役員宛委嘱状の発送時期について

例年(4月)より時期を早めて発送することとする。

(第30期運営委員・庶務・天野孝伸)

## 第30期第9回運営委員会報告

日時：2021年4月1日(金) 10:30-14:00

会場：Zoom

出席(総数18名、定足数11名)：大村善治(会長)、山本衛(副会長)、浅村和史、阿部修司、天野孝伸、臼井洋一、海老原祐輔、大矢浩代、加藤雄人、坂中伸也、佐藤光輝、津川卓也、橋本久美子、松島政貴、三好由純、山本裕二、行松彰、吉村令慧

オブザーバー：塩川和夫、今村剛、笠羽康正、高橋太、山谷祐介、横山竜宏

議事：

### 01. 前回議事録の確認

前回議事録を確認した。

### 01. 協賛・共催関係

承認済みの以下の共催・協賛について報告があった。

#### ● 共催

- ▶ 第29回衛星設計コンテスト

開催日時：2021年11月13日 (最終審査会)

開催場所：オンライン

主催：日本機械学会、日本航空中學會、電子情報通信学会、地球電磁気・地球惑星圏学会、日本天文学会、宇宙航空研究開発機構、宇宙科学振興会、日本宇宙フォーラム、日本ロケット協会

Web：<http://www.satcon.jp/>

#### ● 協賛

- ▶ 日本流体力学会年会2021

開催日時：2021年9月21～23日

開催場所：東京大学生産技術研究所 東京都目黒区駒場4-6-1

主催：日本流体力学会

Web：<https://www2.nagare.or.jp/nenkai2021/>  
(予定)

### 02. 入退会関係

5件のシニア会員への移行申請(Horita R.E. 会員、角村悟会員、寺沢敏夫会員、村上英記会員、渋谷秀敏会員)および3件の退会申請(五家建夫会員、山幡琢也会員、安達はるか会員)があり、これを承認した。また2件の一般から海外への会員種別変更(井上諭会員、西村幸敏会員)について報告があった。

### 03. 会計関係

以下の通り報告があった。

- 長期未納者(5名)について、強制退会とすることかどうか31期で判断いただきたい。
- 2020年度一般会計は新型コロナウイルスの影響によって未使用が数多く発生しており、大幅な黒字会計となる見込みである。

### 04. 国際学術交流外国人招聘と国際学術交流若手派遣

以下の通り報告があった。

- 西田国際学術交流基金について、西田名誉会員に今年度の状況を報告しご意見を伺った。

## 05. 各種賞推薦状況

各種賞の推薦状況について報告があった。

## 06. 秋学会関係

秋学会の準備状況について以下の通り報告があった。

### ● 概要

▶ 日時：2021年11月1日（月）～4日（木）

▶ 会場：

◇ 相模原市立産業会館(A-D 会場、企業ブース、小会合、控室など)

◇ けやき会館（ポスター、懇親会、D 会場、小会合）

◇ 相模原市立総合学習センター（小会合、保育室）

◇ 相模原市体育館（アウトリーチ）

### ● 今後のスケジュール

### ● LOC 役割分担

### ● COVID-19 対策要検討事項

▶ オンラインへの移行の可能性を視野に入れて準備が必要である。

▶ 実地開催にしても会場の収容人数を減らす必要性が高い。

## 07. アウトリーチ活動

以下の通り報告があった。

### ● 秋学会アウトリーチイベント（秋学会の通常開催を想定した場合）

▶ タイトル（仮）：「宇宙・地球探査のスゴ技！はかせと話して知る最新研究」

▶ 日時：2021年10月31日（日）10:00～17:00

▶ 場所：相模原市立体育館

2021年度科研費の審査結果待ち。

### ● 衛星設計コンテスト

第29回衛星設計コンテスト (<http://satcon.jp/contest/>) のスケジュールは以下の通り。

▶ 4月1日～5月17日：参加登録受付期間

▶ 7月5日12時：応募作品提出締切

▶ 7月中旬～8月中旬：第一次審査（書類審査）

▶ 8月中旬以降：第一次審査の通知

▶ 11月13日（土）：最終審査会（発表会形式審査）

審査委員交代、企画委員継続はコンテスト事務局に通知済である。

### ● 地学オリンピック

NPO 法人地学オリンピック日本委員会発行の「未来ガイド」への広告掲載。地学オリンピックのウェブサイトからのリンク先に、SGEPSS のウェブサイト、中高生向けのページ、講師派遣のページを通知。

これまでアウトリーチの予算に組み込まれていた女子中高生夏の学校の費用を男女共同参画の予算に組み入れたいとの提案があった。女子中高生夏の学校のイベントは、男女共同参画との関連が深く、アウトリーチイベントの予算と分離する方がアウトリーチイベントとしての予算が把握しやすくなるため。これを受けて2022年度の予算編成で対応を検討することとなった。

## 08. 男女共同参画関係について

第一期ダイバーシティ推進WG委員について以下の通り提案があり、これを承認した。任期は2022年の3月31日まで。

坂中伸也（主担当・運営委員）、大矢浩代（運営委員）、行松彰（運営委員）、橋本久美子、大塚史子、尾花由紀、齋藤慎司、佐藤由佳、木戸ゆかり、望月伸竜（敬称略）

以下の通り報告があった。

### ● SGEPSS ダイバーシティ推進ワーキンググループ（WG）第一回ミーティング

▶ 日時：2020年12月9日（水）15:00-16:30

▶ 場所：Zoom

▶ 出席者：大矢浩代、橋本久美子、海老原祐輔、大塚史子、尾花由紀、木戸ゆかり、齋藤慎司、佐藤由佳、行松彰（敬称略）

WGの今後の方向性、活動方針、アンケート等について意見交換を行い、会員の現状や課題を把握するための実態調査の前に、WGで現在の重要課題について知識を深める機会を設けること等を議論した。

### ● 男女共同参画学協会連絡会第19期第1回運営委員会

▶ 日時：2020年12月14日（月）14:00-16:00

▶ 場所：Zoom

▶ 出席者：大矢、橋本 運営委員

### ● 男女共同参画学協会連絡会第19期第2回運営委員会

▶ 日時：2021年3月23日（火）14:00-16:00

- ▶ 場所：Zoom
- ▶ 出席者：大矢、橋本、海老原 運営委員
- 女子中高生夏の学校 2021
  - ▶ 日時：2021年8月8日（日）-9日（祝月）（予定）
  - ▶ 場所：Zoom
    - 8/9（祝月）09：00-12：30に実施予定の実験は、これまで開催経験がある学協会に限定して開催する。SGEPSSでは若手アウトリーチグループSTEPLEで検討してもらったところ、オンラインで実施可能とのことで、実験に参加する意向を伝えた。
    - 8/9（祝月）14：00-15：30の学会ポスター紹介は、上限30学協会を募集予定。
- 男女共同参画学協会連絡会第19期第3回運営委員会
  - ▶ 日時：2021年8月23日（月）14：00-16：00（予定）
  - ▶ 場所：Zoom
- 第19回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム
  - ▶ 日時：2021年10月9日（土）10：00-17：45（予定）
  - ▶ 場所：Zoom
  - ▶ 参加費：あり（第18回シンポジウムはオンライン開催で無料だった。金額未定）

#### 09. ウェブ関係

以下の通り報告があった。

- 広報ウェブ更新
  - ▶ 国際学術交流事業派遣者一覧の2019年度分の更新
  - ▶ ドメイン更新料の支払い処理を会計担当に依頼（処理済）
  - ▶ 掲示板更新
- Web更新TF
  - ▶ TFメンバー中村紗都子 会員、銭谷誠司 会員を中心にウェブページ作成作業が開始され、外注したグラフィックスを挿入した試作ページが紹介された。
  - ▶ 作業が完了するまでWeb更新TFを存続することが承認された。（内規は改定しない。）

一般向けコンテンツとして掲載する説明文を各領域のグラフィックス担当者に提供していただきたい旨依頼があった。

#### 10. メーリングリスト関係

以下の通り報告があった。

- sgepssall、sgepssbb、sgepssstdの更新
- sgeadmに31期運営委員を追加
- 賛助会員の広告メールについてスキーム作成中
- sgepssbb、sgepssallのMLの利用規定とウェブ掲載（パスワード付き）について検討中

#### 11. 会報関係

以下の通り報告があった。

- 会報240号を2020年12月24日に発行
  - 会報記事の著作権についての確認（継続中）
    - 現時点で学会ウェブサイト等に会報の著作権設定項目は掲載されていないが、以下のような案を検討している。
      - ▶ 署名原稿は、著者に帰属
      - ▶ その他、運営委員名義で執筆した報告原稿等は、学会に帰属
      - ▶ 著作権移譲手続き等は設定しない
- 前々回の運営委員会にて、過去の60周年記念誌で会報記事を掲載していることが指摘された。この時の著作権云々を確認し、整合がとれるようルールを再設定する。

#### 12. EPS 関係

以下の通り報告があった。

- 最近と今後のスケジュールについて
- 次期EPS運営委員会の体制と報告について
  - ▶ 体制
    - ◇ 議長：臼井洋一
    - ◇ 基金会計（会計責任者）：長谷川健（火山学会）
    - ◇ 会計（雇用担当）：山谷祐介
    - ◇ 広報：加藤雄人
  - ▶ 学会間内規の改定（編集長の人数の定義、運営委員補佐の選出について）
  - ▶ 2021年度予算案承認（黒字が予想される）
  - ▶ 出版コンサルタントの分析を今後を活用する予定
- 科研費補助金
  - ▶ 92万円を繰越申請し認められた

▶ 2021 年度予算 300 万円とともに国際情報発信力強化に活用する

● 基金会計

- ▶ 2020 年度収支は 190 万円黒字の見込み
- ▶ 2021 年度収支は引き続き単年度黒字の見込み
- ▶ 将来の編集事務局員の交代・引き継ぎに備えている

● 論文出版状況

- ▶ 2021 年は 80 編出版（3/31 時点）で好調に推移

● 広報

- ▶ Society サイト、SNS での広報を継続
- ▶ JpGU でのオンラインブース出展を準備中
- ▶ オンラインでの効果的な広報を検討中

13. 連合対応

以下の通り報告があった。

● 日本学術会議主催学術フォーラム・第 11 回防災学術連携シンポジウム開催

- ▶ 「東日本大震災からの十年とこれから」～58 学会 防災学術連携体の活動～
- ▶ 主催：日本学術会議 防災減災学術連携委員会、土木学会・建築学委員会、防災学術連携体（58 学会）
- ▶ 日時：2021 年 1 月 14 日（木）10:00–18:30
- ▶ 会場：オンライン

2021 年度の予定は以下の通り。

● 日本地球惑星科学連合 2021 年大会

- ▶ ユニオンセッション  
U-15 「連合の巨大地震・津波への対応：東日本大震災からの 10 年と将来」  
日時：2021 年 6 月 5 日（土）13:45–15:15
- ▶ パブリックセッション  
「変化する気候下での強風・豪雨災害にどう取り組みむか」  
日時：2021 年 6 月 6 日（日）10:45–12:15

14. 将来構想検討 WG

以下の通り報告があった。

- データ問題に関するアンケートを 3 月 19 日付で会員に実施した。
- 今後は EPS 担当運営委員、EPS Editorial Board の会員を通して EPS と情報共有すること、JpGU

のセクションボード（宇宙惑星科学、大気水圏科学、固体地球科学）でも議論いただくといった対応である。

15. その他

● 選挙結果報告

既に会員宛に報告済みである。今後は電子投票を検討すべきという意見があった。

● 一般向けのグラフィックスの制作について

コメントを受け修正をしている。引き続き対応をお願いしたい。

● 「学生会員の運用に関する申し合わせ」について

学生会員担当の庶務より、2020 年の秋学会で導入された電子決済システムを今後も使用を継続するのであれば、それに合わせて「申し合わせ」を改定していただきたいとの提案があった。

16. 総括

各担当より 30 期の総括があった。

（第 30 期運営委員・庶務・天野孝伸）

## 第 31 期 第 1 回運営委員会 報告

日時：2021 年 4 月 1 日（水）14:40–15:20

場所：Zoom 会議

出席（総数 18 名、定足数 11 名）：山本衛（会長）、塩川和夫（副会長）、浅村和史、阿部修司、今村剛、臼井洋一、海老原祐輔、大矢浩代、笠羽康正、坂中伸也、佐藤光輝、高橋太、津川卓也、三好由純、山本裕二、山谷祐介、行松彰、横山竜宏  
欠席：なし

1. 会長挨拶

はじめに山本会長より挨拶があった。

2. 第 31 期運営委員役割分担の確認

● 役割分担は以下の通り。

- ・ 会長：山本衛
- ・ 副会長：塩川和夫
- ・ 総務：津川卓也
- ・ 庶務：山本裕二（主）、横山竜宏



- ・ 会計： 浅村和史(主)、横山竜宏
- ・ 雑誌： 白井洋一(主)、山谷祐介、加藤雄人 (\*\*)
- ・ 秋学会： 阿部修司(主)、高橋太、笠羽康正
- ・ 広報 Web： 高橋太(主)、行松彰、三好由純、坂中伸也
- ・ 広報 ML： 山谷祐介(主)、浅村和史
- ・ 広報会報： 大矢浩代(主)、今村剛、阿部修司
- ・ アウトリーチ： 行松彰(主)、浅村和史、白井洋一、佐藤光輝
- ・ 男女共同参画： 坂中伸也(主)、大矢浩代
- ・ 助成金： 佐藤光輝(主)、笠羽康正、山本裕二
- ・ 学生発表賞： 三好由純(主)、山谷祐介、大矢浩代、阿部修司
- ・ 3学会合同プラズマ対応： 三好由純
- ・ 連合大会プログラム委員： 笠羽康正(主)、行松彰
- ・ 連合対応： 海老原祐輔(主)、白井洋一
- ・ 将来構想検討 WG： 今村剛(主)、山本裕二、津川卓也
- ・ 新投稿システム TF： 海老原祐輔(主)、坂中伸也  
(主)主担当、(\*)事務局、(\*\*)委員外から

### 3. 会報関係

会報 241 号のスケジュールと目次について確認した。

### 4. 次回運営委員会・評議員会・総会

以下の通り連合大会期間に連動する会議日程を確認した。

- 運営委員会、評議員会  
5月24日(月)の週、あるいは翌週(総会前)で調整 Zoom
- 総会  
6月3日(木) 12:30~13:30 Zoom
- 学協会長会議(会長が出席)  
通常、開催日の約2週間前に通知がある。

### 5. その他

- EPS 雑誌運営について、現在、EPS 事務局員の雇用、事務局のオフィスの契約者は SGPSS の会長が兼ねることになっている。責任が重大であるため、対応の検討などを進めたい。

- 将来構想文書の改訂、会員数減少への対応策、31期の運営委員会としての方向性に関する意見交換を行った。

(第31期運営委員・庶務・山本裕二)

## 第149回総会開催のご案内

第149回総会を JpGU 2021 の会期中、下記のとおり開催します。

日時：2021年6月3日(木) 12:30~13:30

会場：Zoom Webinar を用いたオンライン開催

接続のための情報等は学会メーリングリスト (sgpssall) にて後日ご案内します。

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている影響により、今年の JpGU 大会 (JpGU 2021) は、5月30日~6月6日に完全オンラインで開催されることになりました。春の総会について、多くの会員が参加できるスケジュール及び安心・安全な開催方法を運営委員会において検討し、上記のとおり開催することに決定しました。学会賞授与や重要な議事がありますので、会員の方は是非ご出席ください。やむを得ず欠席される場合には、事前に委任状の提出をお願い致します。電子メールまたはウェブによる委任状の提出が可能です。詳しくは後日ご案内します。

(第31期運営委員・総務・津川卓也)

## 学会費納入についてのお知らせ

2021年度学会費納入をご案内いたします。所定の方法によってお支払いいただきますようお願い申し上げます(納入期限:7月31日)。学会の様々な活動を支える財政基盤は会員の皆様に納入していただく会費にあり、未払いがありますと健全な学会運営に重大な支障をきたします。督促作業には経費とともに人的コストも相当かかりますので、期限までの納入への皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

なお、学生会員については秋学会への参加費として会費は領収されますので、今回の学会費納入案内は行いません(正会員へ移行となる会員には案内をお送りします)。

当学会の会費納入は以下の3つの方法よりお選びいただけます。なお、本年度の JpGU はオンライ

ン開催となりますので、JpGU 会場 SGEPPS デスクでの支払いはできません。

- (1) 銀行振込 (校費払いも可能)
- (2) 銀行口座自動引き落とし (7月下旬に引き落とし予定)
- (3) クレジットカード払い

学会費の支払い方法変更については随時受け付けておりますが、基本的には翌年度の支払い時から有効となります。もし今年度の学会費支払い方法を変更されたい場合は、至急事務局 (sgepps@pac.ne.jp) にご連絡下さい。

銀行口座自動引き落とし、およびクレジットカード払いについては、学会が手数料を負担します。毎年の支払いの手間を省くには、銀行口座自動引き落としが便利でお勧めです。ご希望の会員は書面による手続きが必要となりますので、事務局へお問合せください。

(第 31 期運営委員・会計・浅村和史、横山竜宏)

## 2021 年秋学会および特別セッション募集のお知らせ

2021 年秋学会 (第 150 回総会・講演会・一般公開イベント) を、10 月 31 日 (日) -11 月 4 日 (木)

(11/1-4: 総会・講演会、10/31or11/3: 一般公開イベント) を中心に開催します。講演予稿の投稿期間は 6 月下旬-7 月下旬を予定しています。皆様のご参加・ご講演をお待ち申し上げます。

### 特別セッションの募集

2021 年秋学会の講演会 (11 月 1 日 (月) -11 月 4 日 (木)) 開催に向けて、「特別セッション」のご提案を広く会員の皆様から募集します。「特別セッション」の詳細は下記の通りです。次の内容を添えてご応募下さい。

1. コンビナー: お名前、ご所属、ご連絡先
2. セッションタイトル (日本語および英語)
3. セッション内容説明
4. 特別セッションとして行う意義
5. セッションの規模 (参加見込人数)

応募先: fm@sgepps.org

締切: 2021 年 5 月 17 日 (月) 17:00

ご応募頂いた提案は、運営委員会で検討の後、採択が決まったご提案について会報やホームページ等で周知させていただきます。多数のご応募をお待ちしております。尚、ご質問等は運営委員会・秋学会担当委員までご連絡下さい。

(第 31 期運営委員・秋学会・阿部修司、高橋太、笠羽康正)

記: 「特別セッション」について

学会及び秋の講演会の活性化を図るために、秋学会では「特別セッション」を設けています。

「特別セッション」は、次のような内容を議論する場として位置づけられています。

- レギュラーセッションとは別枠で議論する話題性のある内容 (時機にあった話題、重要テーマなど)
- 当学会内、また他学会も含めたような、分野横断的な内容

特別セッションでは、講演数の制限を緩め、レギュラーセッションと重複した講演申込も可能となっています。

これまで開催された特別セッションは以下の通りです。

- 2020: 論文が書ける研究データ管理・出版・引用: データの新しい役割を見据えて
- 2018: 「あらせ」および多衛星・地上連携観測によるジオスペース研究の進展
- 2017: あらせ衛星/地上観測によるジオスペース研究の新しい展開
- 2016: 考古学と地球電磁気学
- 2015: 大型大気レーダー観測の新時代に向けて  
アジア・オセアニア国際連携による宇宙惑星系探査・観測の新機軸
- 2014: ひさき衛星 (EXCEED) の成果と期待する科学
- 2013: 国際宇宙ステーションからの地球大気・プラズマ観測による新展開
- 2012: 地殻・大気・電離圏結合  
地球電磁気・地球惑星圏科学の将来構想
- 2011: 電離圏変動と地震の関係
- 2010: SGEPPS における最新の月科学: 「かぐや」から次の時代へ

- 2009: 月周回衛星「かぐや」観測による STP 研究の新展開
- 2008: 南極昭和基地大型大気レーダーによる超高層大気研究の新展開  
地震学と地球電磁気学の境界領域研究
- 2007: STE 研究における地上ネットワーク観測の現状と将来展望  
SGEPSS 創立 60 周年記念特別セッション: 地球電磁気学の歩み
- 2006: 地上-衛星観測・データ解析・モデリングの統合型ジオスペース研究に向けて  
地球惑星磁気圏探査: 将来計画~これからを黄金の 20 年とするために~
- 2005: 宇宙進出と STP 科学の接点  
SGEPSS における小型衛星の可能性
- 2004: 宇宙天気

## 分科会報告

### 太陽地球惑星系科学シミュレーション分科会活動報告

松本洋介、三好隆博、銭谷誠司、  
簗島敬、三宅洋平、陣英克、  
天野孝伸、梅田隆行

当分科会は「数値シミュレーション」を共通のキーワードとして、SGEPSS および周辺分野の研究者との交流を図り、SGEPSS 分野におけるシミュレーション研究の発展をサポートすることを目的としています。本稿では令和 3 年 3 月末に行われた以下の研究集会について報告します。

STE シミュレーション研究会・KDK シンポジウム合同研究会 2020

日時: 2021 年 3 月 29 日(月)~3 月 31 日(水)  
場所: オンライン (Zoom)

本研究集会は、例年、名古屋大学宇宙地球環境研究所主催・当分科会共催で開催している「STE シミュレーション研究会」を、京都大学生存圏研究所が主催する「KDK シンポジウム」と合同で開催したものです。2 つの研究会の参加者の相互交流を

図るとともに、STE プラズマシミュレーションに関連する周辺分野の最新動向も含め情報交換及び議論を行いました。本年度は、レーザー科学のシミュレーション研究、数値流体力学の高精度数値解法、そして、演算加速器 (アクセラレータ) とそのプログラミングモデルについて招待講演を企画して、通常の学会・研究会では接点の少ない周辺分野の方々と技術交流・情報交換を行いました。その他、宇宙プラズマや太陽・磁気圏・電離圏環境のシミュレーション研究などの最新成果が報告されました。本研究会のプログラムは <http://cidas.isee.nagoya-u.ac.jp/simulation/meeting2020/> に公開されています。3 日間で 32 件の発表および延べ 58 名の参加がありました。

## 波動分科会報告

成行泰裕、松田昇也、笠原禎也

○2020 年度 ISEE 研究集会「惑星間空間プラズマにおける波動現象」

合同開催: 「太陽地球環境と宇宙線モジュレーション」「太陽圏・宇宙線関連の共同研究成果報告会」

日時: 2021 年 2 月 18-19 日

場所: オンライン開催

世話人: 加藤千尋 (信州大学)、成行泰裕 (富山大学)、徳丸宗利、松原豊 (名大 ISEE)

本研究集会は、波動現象に関する近年の衛星観測および理論・シミュレーション研究の進展を概観し、現在・将来の衛星観測で解決すべき課題について議論することを目的として開催された。2 件の招待講演については 55 分の時間を取り、プラズマ波動に関する活発な議論が交わされた。オンラインでの実施となったが、合同開催の研究集会と合わせて 2 日間で延べ 101 名の参加があった。当日のプログラム等は SGEPSSBB (<http://www.sgepss.org/sgepss/sgepssbb/sgepssbb02249.txt>) で報告されている。

○2019 年度 ISEE 研究集会 「あらせ衛星の電場・プラズマ波動観測データを用いた解析ワークショップ」

主催: 名古屋大学 宇宙地球環境研究所

共催：SGEPSS 内部磁気圏分科会、SGEPSS 波動分科会、日本学術会議電気電子工学委員会  
URSI-H 小委員会、ERG プロジェクト、ERG  
サイエンスセンター

日時：2021 年 2 月 9-10 日

場所：オンライン開催

世話人：松田昇也 (ISAS/JAXA)、三好由純 (名大 ISEE)、篠原育 (ISAS/JAXA)

本研究集会では、あらせ衛星に搭載されたプラズマ波動観測器 PWE によるプラズマ波動観測に着目し、将来の観測戦略立案を見据えて、最新の科学成果を共有することを狙った。二日間の日程で、延べ 100 名を超える参加者が研究集会に参加し、あらせ衛星や搭載機器の運用状況報告 (7 件) に加え、18 件の科学解析結果報告がなされた。1 日目午後には、ERG サイエンスセンターで新規に開発したプラズマ波動解析ツール“ISEE\_Wave”を使った解析講習会を実施した。開催に先だって、笠原禎也会員が「あらせ PWE 観測データを用いた到来方向推定」の演題でチュートリアル講演を行い、プラズマ波動の伝搬特性解析技術の習得を図った。本研究集会は、コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインで開催した。オンライン開催を円滑に進めるために事前の準備に労力を要したが、当日は目立ったトラブルもなく、オンライン開催特有の利点も享受しながら、無事に研究集会を開催することができた。研究会の資料等は ERG サイエンスセンターのホームページ (<https://ergsc.isee.nagoya-u.ac.jp>) に掲載されている。

○波動分科会の活動情報は

(<https://sites.google.com/site/sgepsshadou>)  
にて公開している。分科会活動に興味のある方は  
幹事まで気軽にご連絡いただきたい。

## 「Conductivity Anomaly 研究会」 分科会 2020 年度活動報告 山口 覚

2020 年度 Conductivity Anomaly 研究会の開催

2020 年度の Conductivity Anomaly (CA) 研究会は初のオンライン開催となり、2021 年 1 月 7 日・8 日の 2 日間の日程で開催されました。招待講演 3

件を含む 21 件の講演と 2 日間でのべ 130 名の参加で、コロナ禍の下での開催にもかかわらず例年と遜色ない規模と内容で行うことができました。特に、初の試みの「論文セッション」と、2 回目の開催となった「小セッション」に特色がありました。「論文セッション」は、分科会として SGEPSS 論文賞への推薦論文を選出するに当たり、推薦候補となる論文の著者が、自ら論文内容を紹介するセッションです。研究会の終了後に投票期間が設けられており、推薦論文の選出と組み合わせられたセッションは、初の試みとしての試行錯誤を含みつつも、研究仲間の発表論文を改めて深く理解できる良い機会にもなりました。このセッションのコンビナーナとして準備、運営と投票管理に従事された、小山さん (東大地震研)、市原さん (名大) に改めてお礼申し上げます。

また「小セッション」は、研究会メンバーからのセッション提案によって、特定のテーマについて掘り下げた議論を追求するセッションです。2020 年度は「国内機関による地磁気観測の現状—マルチスケールな地磁気現象の更なる理解へ向けて—」をテーマとしました。国内で地磁気観測を実施する諸機関の、観測の現状と特に力を入れている事業などについての発表を聞き、これまでは、必ずしも交流が十分とは言えなかった大学等の研究者と各機関とで意見交換が行えた貴重な機会となりました。

招待講演 3 件は 2020 年度で職を退かれた、長尾年恭 (東海大学教授)、村上英記 (高知大学教授)、山崎明 (気象庁地磁気観測所主任研究官) の 3 氏による講演で、CA 研究との関わりからそれぞれのご研究をふりかえった示唆に富んだお話しをいただきました。

CA 研究会は通常の学会とは異なり、一般講演も含めて質疑応答の時間に余裕を持ったプログラムとしています。そのために、講演者と参加者が十分に意見交換でき、また講演者にとっては十分な成果に到達していない研究内容であっても発表でき、参加者と議論できる、独自の意義がある研究集会です。例年とは異なる状況下で 2020 年度 CA 研究会の準備に尽力下さった京大防災研究所の吉村令慧さん、山崎健一さんに改めてお礼申し上げます。

## Conductivity Anomaly 研究打ち合わせ会

2020年度は例年の打ち合わせ会の開催形態とは異なり、メール審議（7月24日～31日）、SGEPSS秋学会期間中（11月3日）、CA研究会期間中（1月8日）の計3回の研究打ち合わせ会を実施しました。

今期は、分科会としてのSGEPSS論文賞への論文推薦を目的とした、CA研究会における「論文セッション」を開催するにあたり、その制度づくりが中心的な議題となりました。CA研究会期間中の打ち合わせ会においては、セッション開催後の投票制度をめぐり、当初の制度からの修正について意見を交換しました。

2022年に予定されていた Electromagnetic Induction Workshop の日本開催は、2024年開催へと延期となったことが報告されました。2022年9月にはトルコにて Workshop が開催される予定です。

## 分科会執行体制の交代

2020年度末をもって、山口覚幹事（大阪市立大）・小河勉幹事補佐（東大地震研）の体制から、次のメンバーによる体制へ移行することとなりました。

- ・幹事 上嶋誠（東大地震研）
- ・副幹事 橋下武志（北大）
- ・幹事補佐 山崎健一（京大防災研）
- ・幹事補佐 多田訓子（JAMSTEC）

幹事・副幹事は分科会を代表して、CA研究会や打ち合わせ会の準備進行を担います。幹事補佐は2名とし、うち1名は従来の幹事補佐業務を担い、もう1名は、従来は十分に手を尽くして来られなかった広報業務に従事して、学生や周辺分野へのアピールを追求します。年齢層、地域（所属機関）、性別に強い偏りが出ないように配慮したメンバー構成としました。任期は4年を目処に考えています。

## 内部磁気圏分科会活動報告

寺本万里子、西山尚典、  
中村紗都子、笠原慧

内部磁気圏分科会は、内部磁気圏研究に関連する諸分野との交流、共同研究やキャンペーン観測

の促進、新しい内部磁気圏探査ミッションの実現などを通して内部磁気圏研究を推進することを目的としています。2020年度は、分科会として以下の2回の会合を行いました。

### ○第43回内部磁気圏分科会

日時：2020年7月15日（JpGU 会合中）

場所：ZOOM

この会合では、ジオスペース探査プロジェクト ERG (Exploration of energization and Radiation in Geospace) に関して、あらせ衛星を中心としたプロジェクトの現状報告と今後の予定について情報交換を行いました。また、ERGサイエンスセンターの活動報告、リコネクション研究会についての紹介がありました。また、世話人の交代が報告され、長く世話人を務められた三好由純会員、加藤雄人会員に代わり、新たに西山尚典会員、中村紗都子会員が加わりました。

### ○第44回内部磁気圏分科会

日時：2020年11月4日（SGEPSS秋学会中）

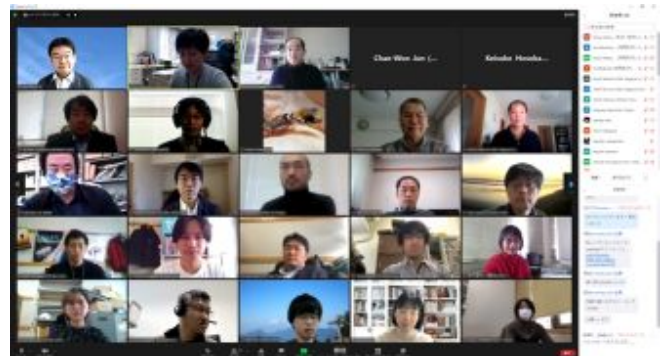
場所：ZOOM

この会合では、ERGプロジェクトの進捗についての報告の他、ERGサイエンスセンターの活動報告、SGEPSS 将来構想検討WG報告、PWING-ERG国際会議&スクールのアナウンス、MMS衛星の現況報告がありました。

分科会での発表資料の一部は、分科会ホームページでご覧頂けます。

内部磁気圏分科会ホームページアドレス：  
[https://sites.google.com/site/naibu\\_jikikenbunkakai/](https://sites.google.com/site/naibu_jikikenbunkakai/)

また、当分科会の活動に関連する以下の研究集会が、名古屋大学宇宙地球環境研究所の共同研究集会として開催されました。



○「第13回 ERG サイエンス会議 および 内部磁気圏研究集会」(内部磁気圏分科会 共催)

日時: 2020年9月16-18日

場所: ZOOM

○「脈動オーロラ研究集会」

日時: 2021年1月20-21日

場所: ZOOM

○「第14回 ERG サイエンス会議 および 内部磁気圏研究集会」(内部磁気圏分科会 共催)

日時: 2021年2月9-10日

場所: ZOOM

上記のような分科会会合・研究集会に加え、オンラインでのつながりが拡大している昨今の情勢を生かして、2021年3月から、Slackを通じた活動を開始しています。

Slackは、チャットでの交流・質問・議論・ファイル共有ができるオンラインツールであり、近年多くの研究会等で活用されています。現在内部磁気圏 Slack へは43名が参加しており、論文情報の交換やPythonに関する教科書の共有、雑談等が行われています。

内部磁気圏 Slack への参加をご希望される方は世話人までご連絡ください (naibujikiken@gmail.com あるいは個人宛)。



## 「若手アウトリーチ活動 STEPLE」令和2年度活動報告 北原理弘(令和2年度代表)、堺正 太朗(令和3年度代表)

若手アウトリーチ活動 STEPLE とは、大学院生を含む若手学会員有志が出前授業・体験型イベント等の活動を通して、一般の方々に地球科学の面白さを伝えようとする取り組みを行っている団体です。学生や若手研究者が積極的にアウトリーチ活動に関与できるよう、学会のアウトリーチ活動を活性化させたいという想いから、「手に届く宇宙☆地球科学レクチャー」を合言葉に活動しています。2010年から始まった当団体は学会アウトリーチ部会に所属しており、毎年様々なイベントの企画、開催、出展等を行ってきました。

しかしながら、本年度は新型コロナウイルス流行の影響を受けて、全国各地で例年開催されていたオンサイト形式のアウトリーチイベントおよび出張公演等は開催が見送られ、我々も参加を見送りました。また同様の事情により、秋学会時のアウトリーチイベントは開催が見送られたため、恒例となっていたアウトリーチイベントの運営補助等の活動は行うことができませんでした。令和2年度は、従来のアウトリーチ活動が難しいという厳しい状況ではありましたが、そのような中でも行うことができたオンラインの活動について、以下に報告いたします。

### ●SSH 探求講演会「地球と宇宙のつながり」

日程: 2020年9月28日

講演依頼者: 長野県飯山高等学校(長野県)

催事形態: オンライン講演

時間: 14:00-14:40(内訳: 講演30分+質疑応答約10分)

参加人数: 14名(内訳: 高校1、2年生(4名)、教職員(10名))

スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の活動の一環として依頼いただき、オンライン形式で講演を実施しました。STEPLE所属の学会員1名が、地球磁気圏やオーロラに関する研究、及び大学における研究活動等に関する講演を行いました。STEPLEとしてはコロナ禍における初めての活動でしたが、これからのアウトリーチ活動の可能性を感じるよい機会となりました。

<http://sgepss.org/steple/demaelecreport-vol-36/>

●SSH 探求講演会「大学での生活と研究～地球磁気圏におけるプラズマ波動によるオーロラ電子散乱～」

日程：2021年2月26日

講演依頼者：長野県飯山高等学校（長野県）

催事形態：オンライン講演

時間：12:50-13:50（内訳：講演30分+質疑応答約30分）

参加人数：17名（内訳：高校1、2年生(10名)、教職員(7名)）

9月に実施した講演に引き続き、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の活動の一環として依頼を頂き、オンライン形式で講演を実施しました。依頼校の卒業生でもあるSTEPLE所属の学会員1名が、自身の経験を交えながら大学での生活や研究に関する講演を行いました。研究や科学をより身近に感じてもらえるように、動画を用いながら脈動オーロラなどの現象を紹介しました。講演者の他に、STEPLE所属の学会員5名が参加し、高校生からの活発な質問に対して様々な視点からお答えしました。

<http://sgepss.org/steple/demaelecreport-vol-37/>

今後は、このようなオンライン形式で行えるアウトリーチ活動を模索していくと同時に、社会情勢の好転が見込まれる際には例年行ってきたオンライン活動の再開・併用も検討いたします。

尚、STEPLEでは活動メンバーを随時募集しています。学生や若手会員の皆様でアウトリーチ活動にご興味ある方は [steple-inquiry@googlegroups.com](mailto:steple-inquiry@googlegroups.com) またはお近くにSTEPLE所属の学会員までお問い合わせください。

## 第29回衛星設計コンテスト参加登録・作品募集のお知らせ

本学会を含む9つの学協会や機関が共同で主催します、第29回衛星設計コンテストの参加登録・作品募集が開始されました。スケジュールは現状下記の通りとなっておりますので、積極的なご参加を戴けますよう、宜しくお願い申し上げます。

・4月1日(木)～5月17日(月)17時：参加登録受付

- ・7月5日(月)12時：応募作品提出期限
- ・7月中旬～8月中旬：第一次審査(書類審査)
- ・11月13日(土)：最終審査会(発表会形式審査)

なお、本年度の最終審査会は、コロナウィルス感染状況に鑑み、昨年に続きオンライン開催となります。詳細や最新情報については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://satcon.jp/>

(実行委員・山本衛、行松彰、企画委員・田所裕康、審査委員・今井一雅)

## 助成公募

### 2021年度前期(2021年8月末締め切り)助成公募のご案内 公益財団法人宇宙科学振興会

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホームページ<http://www.spss.or.jp>に掲載しています。それぞれの公募に対する応募申請に際してはホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール([admin@spss.or.jp](mailto:admin@spss.or.jp))で申請下さい。奮ってご応募いただくようご案内申し上げます。

#### (1) 国際学会出席旅費の支援

##### ●支援対象

宇宙理学(飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究)および宇宙工学(宇宙航空工学を含む)に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者(2021年4月2日で35歳以下)、またはシニアの研究者(2021年4月2日で63歳以上かつ定年退職した者)で、国際学会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。海外で開催される国際学会に限ります。リモートでの参加の場合でも参加費(上限5万円)については支援します。

●助成金額・件数：一件あたり10～30万円程度、年間10件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2021年8月31日：2021年10月から2022年3月の期間に開催初日が予定される国際学会の参加者対象

(2) 国際学会開催の支援

●支援対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体（研究所、大学等）で、宇宙理学（飛翔体を用いた観測、探査、実験に関連する理学研究）及び宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。リモートでの開催も支援対象です。

●助成金額・件数：一件あたり20～50万円程度、年間4件程度

●申し込み受付時期

応募締切り2021年8月31日：2021年10月から2022年3月の期間に開催初日が予定される国際学会対象

●照会先

公益財団法人宇宙科学振興会事務局

<http://www.spss.or.jp>

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1

Email: admin@spss.or.jp

Tel: 042-751-1126

## 訃報

鶴田浩一郎 名誉会員

(宇宙航空研究開発機構・宇宙科学研究所)

2020年12月3日 御逝去（享年83歳）

謹んでご冥福をお祈りいたします。



## 学会賞・国際交流事業関係年間スケジュール

積極的な応募・推薦をお願いします。詳細は学会ホームページを参照願います。

賞・事業名	応募・推薦/問い合わせ先	締め切り
長谷川・永田賞	会長	2月末日
田中館賞	会長	8月末日
大林奨励賞	大林奨励賞候補者推薦委員長	1月末日
学会特別表彰	会長	2月末日
SGEPSS フロンティア賞	SGEPSS フロンティア賞候補者推薦委員長	12月末日
学生発表賞 (オーロラメダル)	推薦なし/問い合わせは運営委員会	
国際学術交流若手派遣	運営委員会	5月、7月、10月、1月中旬
国際学術交流外国人招聘	運営委員会	若手派遣と同じ
国際学術研究集会	運営委員会	1月

## SGEPSS Calendar

21-05-30~06-06	3JpGU2021、日本地球惑星科学連合 2021 年大会 (オンライン)
21-08-01~06	AOGS2021 18th Annual Meeting (Virtual)
21-08-21~27	IAGA-IASPEI Joint Scientific Assembly (JSA) 2021 (Virtual conference)
21-08-28~09-04	XXXIV URSI GASS 2021 (Rome, Italy as Hybrid)
21-10-31~11-04	第150回 SGEPSS総会および講演会 (神奈川県相模原市)
21-12-13~17	AGU 2021 Fall Meeting (New Orleans, USA and Online)
22-04-03~08	EGU General Assembly 2022 (Vienna, Austria)

## 賛助会員リスト

下記の企業は、本学会の賛助会員として、  
地球電磁気学および地球惑星圏科学の発展に貢献されています。

### (有)テラテクニカ(2口)

〒 208-0022  
東京都武蔵村山市榎3丁目25番地1  
tel. 042-516-9762  
fax. 042-516-9763  
URL <http://www.tierra.co.jp/>

### 三菱重工(株)(2口)

防衛・宇宙セグメント  
〒 485-8561  
愛知県小牧市東田中1200  
tel. 0568-79-2113  
URL <http://www.mhi.co.jp>

### クローバテック(株)

〒 180-0006  
東京都武蔵野市中町 3-27-26  
tel. 0422-37-2477  
fax. 0422-37-2478  
URL <http://www.clovertech.co.jp/>

### 富士通(株)

〒 261-8588  
千葉県美浜区中瀬 1-9-3  
富士通(株)幕張システムラボラトリ  
tel. 043-299-3246  
fax. 043-299-3011  
URL <http://jp.fujitsu.com/>

### 明星電気(株)宇宙防衛事業部

〒 372-8585  
群馬県伊勢崎市長沼町 2223  
tel. 0270-32-1113  
fax. 0270-32-0988  
URL <http://www.meisei.co.jp/>

### カクタス・コミュニケーションズ(株)

〒 101-0061  
東京都千代田区三崎町2-4-1  
TUG-Iビル 4F  
tel. 03-6261-2290  
fax. 03-4496-4557  
URL <https://www.editage.jp/>

### 日鉄鉦コンサルタント(株)

〒 108-0014  
東京都港区芝 4 丁目 2-3 NMF 芝ビル 3F  
tel. 03-6414-2766  
fax. 03-6414-2772  
URL <http://www.nmconsults.co.jp/>

### Harris Geospatial 株式会社

東京オフィス  
〒113-0033  
東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル 3F  
tel. 03-6801-6147 / fax. 03-6801-6148  
大阪オフィス  
〒550-0001  
大阪市西区土佐堀1-1-23  
コウダイ肥後橋ビル 5F  
tel. 06-6441-0019 / fax. 06-6441-0020  
Email: sales\_jp@exelisvis.co.jp  
URL <https://www.harrisgeospatial.co.jp/>

次ページへ

## 賛助会員リスト

シュプリンガー・ジャパン(株)

〒105-6005

東京都港区虎ノ門4-3-1

城山トラストタワー5階

tel. 03-4533-8263(地球科学分野・直通)

fax. 03-4533-8081

URL <http://www.springer.com/>

論文翻訳ユレイタス

〒101-0021

東京都千代田区外神田 2-14-10

第2電波ビル 402A

tel. 03-3525-8001

fax. 03-3525-8002

URL <https://www.ulatus.jp/>

株式会社NTシステムデザイン

〒206-0803

東京都稲城市向陽台5-9-7-203

tel. 042-379-9813

fax. 042-379-9814

Email: [info@nt-sys.jp](mailto:info@nt-sys.jp)

URL <http://www.nt-sys.jp/>

# 総合電磁気計測テクノロジー

## 磁力計

フラックスゲート  
プロトン  
オーバーハウザー  
ポタシウム  
インダクション

## 火山

衛星携帯データ転送  
太陽電池システム  
無線LAN

## 磁気試験

磁気モーメント計測システム  
磁気シールド

## 海洋

海底電位磁力計(OBEM)  
海底電磁探査装置  
曳航式オーバーハウザー

## 宇宙

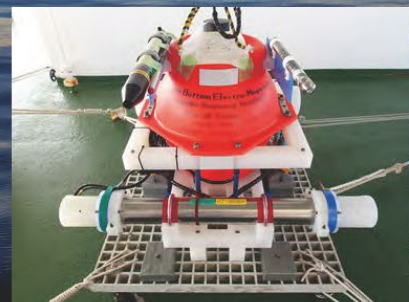
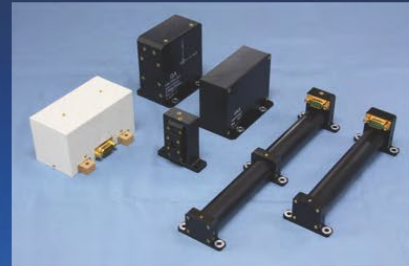
磁気トルカー  
小型衛星地磁気姿勢計  
太陽センサ

## 航空

航空機用ポタシウム  
AUV用フラックスゲート  
ポタシウム磁力計搭載ドローン

## 地下電磁探査

TDEM測定器  
比抵抗測定器  
全磁力サーベイ



## 有限会社テラテクニカ

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎 3-25-1  
TEL:042-516-9762 FAX:042-516-9763  
カナダGEM Systems社 日本代理店

<http://www.tierra.co.jp/>

# この星に、たしかな未来を

— OUR TECHNOLOGIES, YOUR TOMORROW —

私たち三菱重工は、次の世代の暮らしと、そこにある幸福を想い、人々に感動を与えるような技術と、ものづくりへの情熱によって、たしかな未来を提供していくことを目指します。そのために私たちは、これまで培ってきた技術を磨くとともに、新たな発想で様々な技術を融合させるなど、さらなる価値提供を追求し、地球的な視野で人類の課題の解決と夢の実現に取り組みます。



三菱重工業株式会社 [www.mhi.co.jp](http://www.mhi.co.jp)

〒108-8215 東京都港区港南2-16-5

Tel 03-6716-3111

 **三菱重工**

この星に、たしかな未来を



地球電磁気学研究・地球惑星圏科学をサポートする、  
**高性能磁気測定機器**を日本のお客様へご案内させていただきます。

海底電位差計用  
 銀-塩化銀電極  
 EL-1

【クローバテック製品】



フラックスゲート  
 磁力計

超伝導磁力計

2G Enterprises



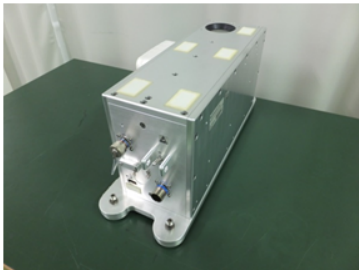
地球電磁気学研究と共に クローバテック株式会社

<http://www.clovertech.co.jp>

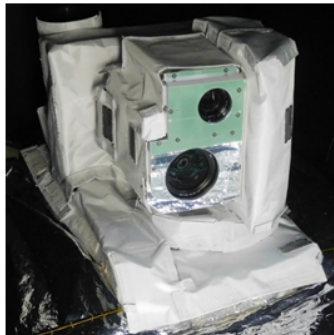
TEL0422-37-2477 FAX0422-37-2478

# 明星電気株式会社

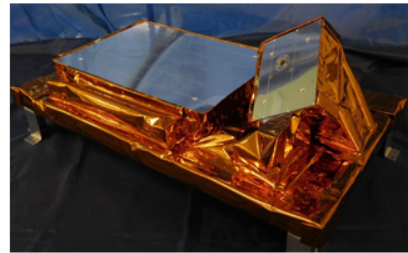
## 国際宇宙ステーション搭載カメラ



親アーム先端取付型プラットフォーム(MPEP)搭載カメラ  
 「きぼう」ロボットアームに取り付けられ、ISSに接近する  
 「こうのとり」9号機の映像を取得。



「きぼう」船外プラットフォームに取り付ける  
 次世代ハイビジョンカメラ(HDTV-EF2)



PMsurface mission assy  
 「こうのとり」9号機に取付け、ISSに接近する際の  
 映像を取得、無線LANでISSに伝送に成功。

国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟や  
 宇宙ステーション補給機「こうのとり」に搭載された各種のカメラ

日本の宇宙開発草創期から参画し、現在までに  
 約3,000個もの観測機器を宇宙に送り出しています。  
 明星電気は、独自の技術、**Sensing & Communication** -  
 「計る技術」と「伝える技術」をコアに、国内外の宇宙開発に貢献しています。

宇宙防衛事業部営業部東京都江東区豊洲三丁目1番1号

TEL:03-6204-8252 MAIL:aerospace@meisei.co.jp

[www.meisei.co.jp](http://www.meisei.co.jp) 採用情報随時更新中

IHI GROUP  
 Realize your dreams





### MT法 現場から解析まで長年のノウハウ

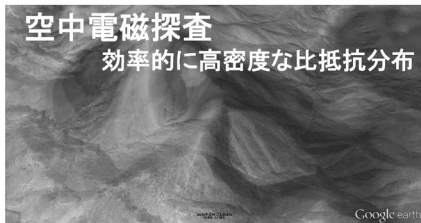
MT法電磁探査は、自然の電磁場信号を用いて行なう比抵抗探査手法です。他の比抵抗探査手法よりも探査深度が深く、地下数十kmまで探査が可能です。このため、地殻構造調査や地熱構造調査に多くの実績があります。また、測定周波数の高いAMT (Audio Frequency MT) 法探査を用いることにより、地下1km程度までの詳細な探査も可能で、トンネル掘削前の土木地質調査や断層調査への実績があります。測定システムは可搬性に優れ、騒音振動はありません。



### ジオレーダ

斜面の動きをミリ波で検知

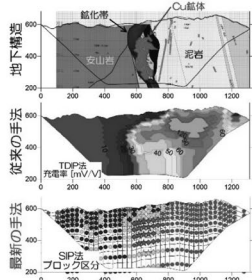
ジオレーダはミリ波あるいはマイクロ波帯の電波を照射し、火山や地滑り斜面、鉱山切羽などで反射した成分を受信します。受信記録に差分干渉解析を適用することで、観測ターゲットの微小変位を常時モニタリングすることができます。レーダアンテナは水平及び垂直方向に回転する機構を備えていますので、面的なデータ集録が可能となります。



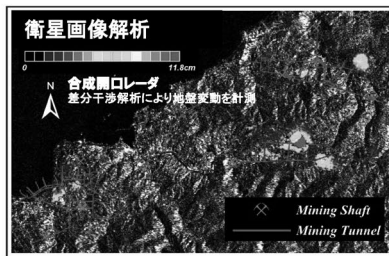
### 空中電磁探査 効率的に高密度な比抵抗分布

空中物理探査は、固定翼機やヘリコプターを用いて行なう物理探査手法です。空中から調査を行うため、地表からアクセスが困難な地区の情報を容易に得ることができ、1日に数百kmにおよぶデータを取得することが可能です。測定項目には、磁場強度、重力、放射能強度および電磁場強度があり、お客様のニーズに合わせた測定項目をご提案いたします。

### SIP法



SIP法は、地下の周波数特性を調べる電気探査手法です。通常のTDIP法よりノイズ耐性が高く、得られるパラメータも多いことから、次世代の電気探査法として注目を集めています。含有物に依存する周波数特性を測定することで、今まで以上に詳細に岩種を区別することが可能になります。



### 衛星画像解析

合成開口レーダ 差分干渉解析により地盤変動を計測

人工衛星に搭載された光学センサーやレーダセンサーは、数m程度の高い空間分解能で、数十～数百km四方の広範囲の地表情報を記録し、画像化します。リモートセンシングでは、衛星画像を解析することにより、地球上のあらゆる地域の情報を遠隔的に収集することが可能で、人工衛星が周期的に地球を周回しますので、地表状況の定常監視に応用できます。

## 日鉄鉱コンサルタント株式会社

ホームページ: <http://www.nmconsults.co.jp/>  
E-mail: [geophy@nmconsults.co.jp](mailto:geophy@nmconsults.co.jp) (物理探査部)  
東京都港区芝4-2-3 NMF芝ビル 3F Tel:03-6414-2766 Fax:03-6414-2772

## 学会からのお知らせ

### Earth, Planets and Space

Open Access for the Geosciences  
Impact Factor (2019): 2.075, 5-year IF (2019): 2.472

#### 特集号の提案

EPS では、特集号の提案を随時受け付けております。研究プロジェクトの最新の成果の発表の場としてご活用ください。詳しくは、以下をご参照ください。

<https://earth-planets-space.springeropen.com/proposals>

#### SGEPSS に関係の深い最新・投稿受付中の特集号

- [20th Anniversary Issue: Earth, Planetary, and Space Sciences in the Next Decade](#)
- [International Geomagnetic Reference Field - The Thirteenth Generation](#)
- [Characterization of the geomagnetic field and its dynamic environment using data from space-based magnetometers](#)
- [The 13th International Conference on Substorms](#)
- [Solar-Terrestrial Environment Prediction: Toward the Synergy of Science and Forecasting Operation of Space Weather and Space Climate](#)
- [Marian Moons eXploration: The scientific investigations of Mars and its moons](#)
- [VLF/ELF Remote Sensing of Ionospheres and Magnetospheres](#)

#### 賛助会員の募集

SGEPSS の事業は、賛助会員の皆様のサポートを受けております。賛助会員の皆様には、以下の広告サービスを行っておりますので、入会についてご相談ください。

- ✓ [学会 Web トップページ](#)でのロゴマーク掲載
- ✓ [賛助会員様一覧ページ](#)への情報掲載
- ✓ 定期刊行の会報における広告記事掲載

# エディテージの英文校正・学術翻訳サービス

5領域20の専門チームが1,200以上の専門分野をカバー創業14年 56万稿以上の豊富な校正実績

ed/tage  
by CACTUS



## 英文校正・論文校閲サービス

ジャーナル投稿前の英語論文を国際出版レベルの英語に仕上げるアカデミック英文校正・英文添削サービス。専門分野の博士号・修士号または国際認定BELS取得校正者が高品質、低価格且つ業界最高レベルの納品スピードで原稿を出版に適した状態に校正します。

### プレミアム英文校正プラス



論文の論理校正まで踏み込んだパラグラフ毎に校正。365日無料の再校正サービスと査読コメント対策で投稿プロセスまでカバー。

料金(税抜) 15円~/単語

### プレミアム英文校正



論文の論理構成にまで踏み込んでパラグラフごとに校正。365日間無料再校正つきで論文の原稿修正に何れも対応するワンランク上の校正サービス。

料金(税抜) 11円~/単語

### スタンダード英文校正



当日納品可。原稿の文法、英語構文、語彙選択など英語面を徹底的にチェックするサービス。初回ご注文時に+2円/単語で365日無料再校正(1回)が適用。

料金(税抜) 5円~/単語

エディテージ



ed/tage  
by CACTUS

www.editage.jp

エディテージはカクタス・コミュニケーションズのサービスブランドです。

カクタス・コミュニケーションズ株式会社  
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-4-1 TUG-1 ビル 4F

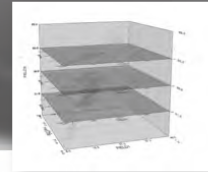
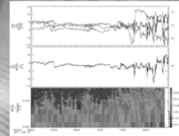
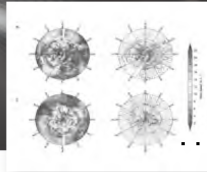
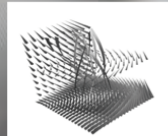
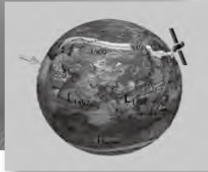
お問合せ:03-6868-3348 | submissions@editage.com



# IDL

Discover What's In Your Data.

## 電磁圏・プラズマ研究分野でのスタンダードソフトウェア



IDLは、コロラド大学大気宇宙物理学研究所出身のDr. David Sternにより、より効率的にデータ処理から可視化までを、クロスプラットフォームOS上で実行出来るように研究者視点から開発されております。

現在、地球電磁気・地球惑星圏学会の皆様はIDLをTHEMIS衛星データ処理(TDAS)やSuperDARNデータ処理などで多くご利用されていると思います。最新のIDLでは対話形式だけではなく、開発環境やプログラミング自体も大幅に改良され、表示やフォントも綺麗で使い易くなっております。【最新版IDL無償評価版お問合せください】

**HARRIS**<sup>®</sup>  
TECHNOLOGY TO CONNECT,  
INFORM AND PROTECT<sup>™</sup>

### Exelis VIS 株式会社

■本社 / 東京オフィス

〒113-0033 東京都文京区本郷1-20-3 中山ビル3F

TEL: 03-6801-6147 / FAX: 03-6801-6148

■大阪オフィス

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1-1-23 コウダイ肥後橋ビル5F

TEL: 06-6441-0019 / FAX: 06-6441-0020

URL > <http://www.exelisvis.co.jp/> MAIL > [sales\\_jp@exelisvis.co.jp](mailto:sales_jp@exelisvis.co.jp)



# Springer eBook 地球科学・天文学関連コンテンツ

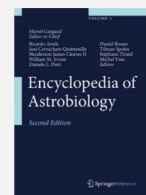
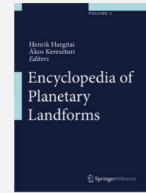
研究にも、教育にも最適なイーブック・コレクション

- 分野別、出版年別にパッケージ化した買い切り商品
- 広範な領域を網羅
- 利用価値の高いレファレンスや、ブックシリーズ、テキスト、モノグラフを含む幅広いコレクション
- 一冊まるごと、章ごとでもダウンロード可能
- 同時アクセス無制限、プリントアウト可能で教材にも最適。学生の教材費を軽減。
- 時、場所、デバイスを選ばず利用でき、移動の多い多忙な研究者に最適

分野	累計出版点数	2017年予定出版点数
地球科学・環境科学	5,700点	390点
物理学・天文学	10,000点	430点

ご所属の機関で使えるeBookをご存じですか？  
利用可能コンテンツ、タイトルリスト、お見積りなどご希望の方はお問合せください。

シュプリンガー・ネイチャー インスティテューショナル・マーケティング  
• Tel: 03-4533-8091 • Fax: 03-4533-8081 • Email: [jpmarket@springernature.com](mailto:jpmarket@springernature.com)



springer.com

Part of **SPRINGER NATURE**



## 学術論文の英文校正・投稿支援サービスなら、エナゴへ

研究論文に特化した英文校正で論文の英語を磨き上げ、国際誌への投稿をサポート。新規のお客様には15%割引を適用。

### エナゴの選ばれる理由

- 2段階チェック**  
1. 「分野の専門家」と「英語の専門家」2名によるチェック。
- 専門分野の合致**  
2. 各分野で博士・修士号を取得した専門家が校正。
- 査読対応込みの再校正**  
3. 投稿後の修正と加筆に何度でも再校正を行う「査読対応オプション」。

1単語あたり4.5円～。2名体制の校正料金では業界最安値レベル。



## 学術論文の翻訳なら、翻訳ユレイタスへ

分野の専門家最大5名による日英・英日翻訳で、研究成果の世界への発信をサポート。新規のお客様には15%割引を適用。

### ユレイタスの選ばれる理由

- 分野に合致した翻訳者**  
1. 1117の専門分野の中から、原稿の内容と最も合致する翻訳者を選びます。
- 博士・修士による翻訳**  
2. 平均10.4年の学術論文翻訳の経験と有するスペシャリストです。
- 回数無制限の修正保証**  
3. 何度でも翻訳の手直しを行う「あんしん保証」(日英翻訳レベル3)。



ご利用のたびに貯まるポイントを次回サービスご利用料金のお支払いに使える  
研究者のためのリWARDSクラブがあります。

研究支援エナゴ：  
論文翻訳・学術翻訳ユレイタス：

[www.enago.jp](http://www.enago.jp)  
 [www.ulatus.jp](http://www.ulatus.jp)

メールには24時間対応  
 [request@enago.com](mailto:request@enago.com)  
 [request@ulatus.com](mailto:request@ulatus.com)

電話受付：月～金10:00～19:00  
 **050-6861-4503**  
電話受付：月～金10:00～20:00 土12:30～21:30  
 **050-6861-4505**

# 株式会社 NTシステムデザイン

地球物理学・地震火山研究向け  
測定器開発・製造・販売



オモロイ研究をしている人と  
オモロイ仕事をしたい!



[www.nt-sys.jp](http://www.nt-sys.jp)

[facebook.com/ntsysd](https://facebook.com/ntsysd)



MT観測用 電場観測装置  
ELOG-DUAL

## 地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS)

会長 山本衛 〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄 京都大学 生存圏研究所  
E-mail: [yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp](mailto:yamamoto@rish.kyoto-u.ac.jp)

総務 津川卓也 〒184-8795 東京都小金井市貫井北町4-2-1 情報通信研究機構 電磁波研究所  
TEL: 042-327-5239 FAX: 042-327-6163 E-mail: [tsugawa@nict.go.jp](mailto:tsugawa@nict.go.jp)

広報 大矢浩代(会報担当) 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33  
千葉大学 大学院工学研究院  
TEL:043-290-3310 FAX:043-290-3310 E-mail: [ohya@faculty.chiba-u.jp](mailto:ohya@faculty.chiba-u.jp)

阿部修司(会報担当) 〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744  
九州大学 国際宇宙天気科学・教育センター  
TEL:092-802-6240 FAX:092-802-6240 E-mail: [abeshu@icswse.kyushu-u.ac.jp](mailto:abeshu@icswse.kyushu-u.ac.jp)

今村剛(会報担当) 〒277-8561 千葉県柏市柏の葉5-1-5  
東京大学 大学院新領域創成科学研究科  
TEL: 04-7136-3928 E-mail: [t\\_imamura@edu.k.u-tokyo.ac.jp](mailto:t_imamura@edu.k.u-tokyo.ac.jp)

会報に関するお問い合わせは、[kaiho@sgepss.org](mailto:kaiho@sgepss.org)までお願いします。

運営委員会(事務局) 〒650-0034 神戸市中央区京町83番地 三宮センチュリービル 3階  
(株)プロアクティブ内 地球電磁気・地球惑星圏学会事務局  
TEL: 078-332-3703 FAX: 078-332-2506 E-mail: [sgepss@pac.ne.jp](mailto:sgepss@pac.ne.jp)